

紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況 (2015 年 12 月～2016 年 1 月)



- 紀伊半島北部から東海地方において 12 月 28 日～1 月 14 日頃に、活発な微動活動。
- 紀伊半島南部において 1 月 8～13 日頃に、やや活発な微動活動。

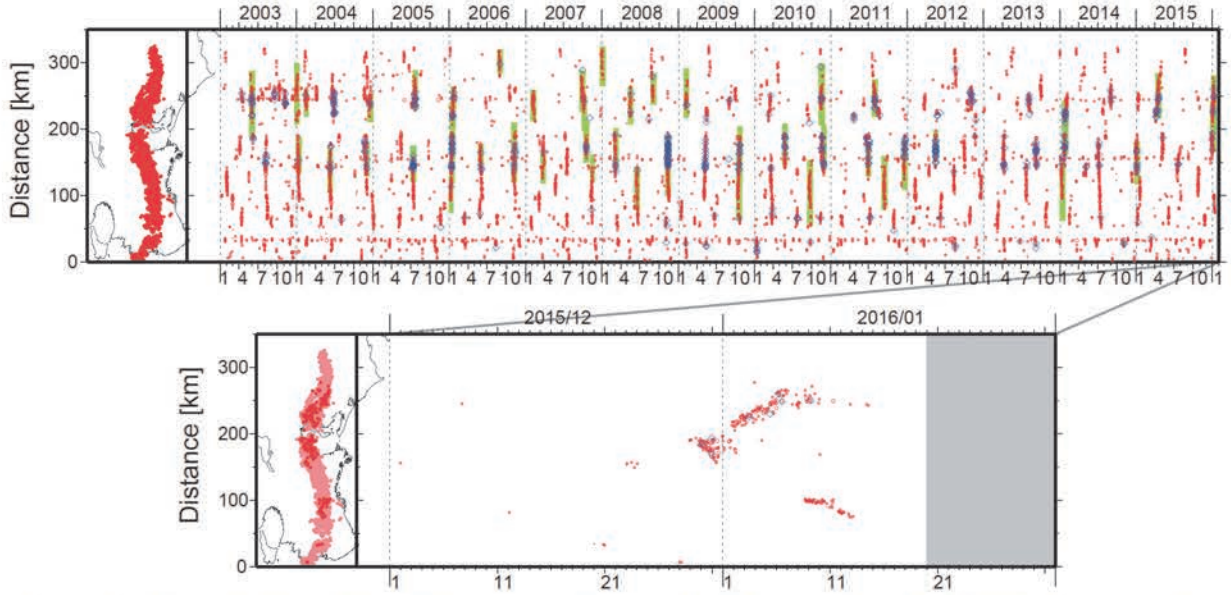


図 1. 紀伊半島・東海地域における 2003 年 1 月～2016 年 1 月 19 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法(Maeda and Obara, 2009)およびクラスタ処理(Obara et al., 2010)によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は 2015 年 12 月～2016 年 1 月の拡大図である。12 月 28 日～1 月 14 日頃に三重県北部から愛知県で微動活動がみられた。この活動は、12 月 31 日頃まで南西方向に活動域が拡大したのち、1 月 1 日頃からは伊勢湾を挟んだ愛知県西部の領域で活動が開始した。その後、東方向への活動域の移動がみられ、愛知県東部まで達した。活動は 10 日頃より弱まりつつ 14 日頃まで継続した。この活動に際して、傾斜変動から短期的 SSE の断層モデルも推定されている。1 月 8 日～13 日頃には奈良県南部でやや活発な微動活動が発生し、西方向への活動域の移動がみられた。12 月 20～21 日頃には、和歌山県中部でごく小規模な活動がみられた。12 月 23～24 日頃には、三重県北部で小規模な活動がみられた。

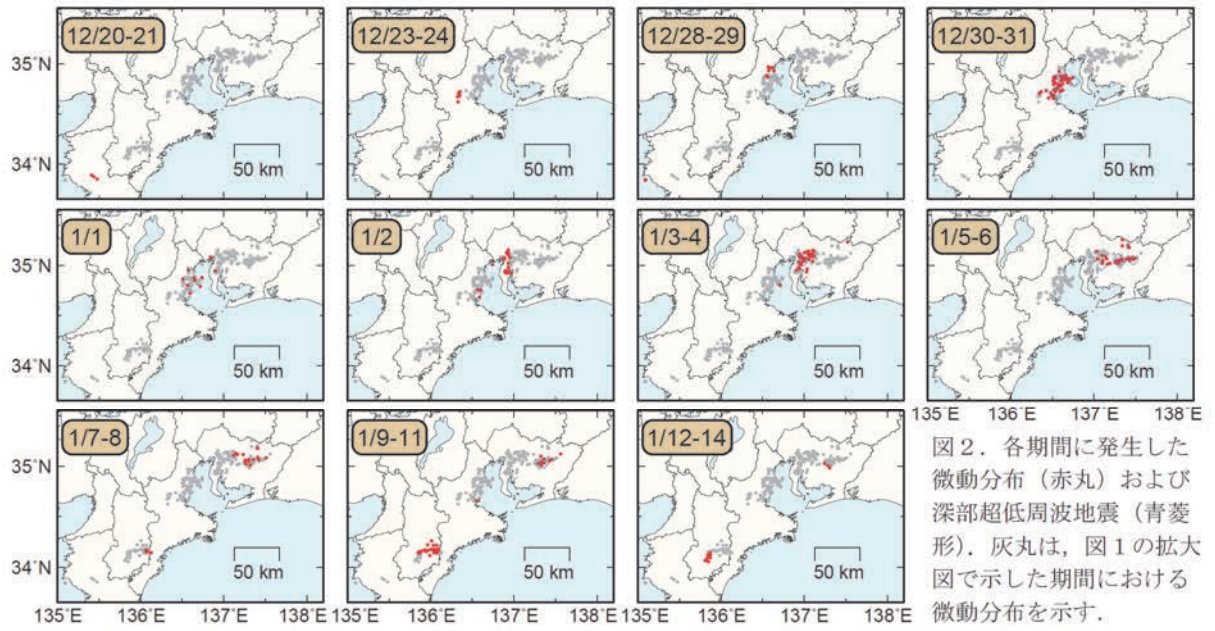


図 2. 各期間に発生した微動分布（赤丸）および深部超低周波地震（青菱形）。灰丸は、図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す。

防災科学技術研究所作成

図 5 紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況